

たげな新聞

2012年6月 夏号 (2)

製作：たげな新聞プロジェクト
メンバー50名+2企業

mail : takenoura_news@yahoo.co.jp

ようやく訪れた春が過ぎ、
そろそろ梅雨の季節へ向かいます。

たげなの明るい話題と、
津波をのりこえて

たげなの神社に力強く咲いた
桜の押し花とともに、
もう一度 春を感じてください。

祝 初水揚げ 銀ザケ

5/11

高く売れますように…



4/29



竹浦関連 新聞記事

河北新報 平成 24 年 4 月 30 日付 紙面より



東日本大震災の津波で大きな被害を受けた女川町竹浦地区で 29 日、
庭足五十鈴神社の春の祭典が 2 年ぶりに開かれ、
約 65 世帯の大半が流出した集落をみこしが練り歩いた。
十数人の女性たちが復興への願いを込め、

よさこいソーランを披露して祭りを盛り上げた。

「住む場所がばらばらになっているみんなが一つになり、祭りを盛り上げたいと
思った。みんなに喜んでもらってうれしい」と笑顔を見せた。

その他、「石巻かほく 5/2・5/3 付」「石巻日日新聞 5/2 付」新聞に、竹浦のお祭りが連日大きく掲載されました。

ありがとうの気持ち その2 絆

震災以降、多くの方々が、竹浦復興のために「生きる力」を与えてくださっています。

一部の方ではありますが、ご紹介させていただきます。



佐々木謙亮さんは、二次避難先である秋田県仙北市のホテルの支配人さんで、秋田でお世話をしながら、何度も何度も、たげなの浜に炊き出しに来てくださいました。たげなの人の多くが、佐々木さんに支えていただいたと思っています。本当にありがとうございました。

12月冬号で、ありがとうの気持ち その3「獅子ふり」をお送りします。

竹浦漁港のあゆみ

2月～3月



漁協から船が届きました



倉庫が届きました



5月



いよいよ 船がおりました

(女川町誌による解説)

青字はおまけの解説で-す♥

イスパニアのセバスチャンビスカイノらは、慶長 16 年 (1611) に伊達藩の許可を得て三陸沿岸の良港を探すために沿岸部の測量を行った。これはおそらく、西洋人初の牡鹿半島の探検であろう。

伊達政宗は、藩の繁栄のためにイスパニア (今のスペイン) と貿易をしようと考え、將軍徳川家康から、特別にそれを許されました。

ビスカイノとソテロはのちに、支倉常長とともにサンファンパウティスタ号で日本初の対ヨーロッパ外交交渉の旅に出る、歴史的人物です。

ビスカイノらは仙台を船で出発し、塩釜、松島、石巻を経て牡鹿半島を廻り女川湾に至った。今では名だたる宮城の港ばかり。

ビスカイノらは、ウラガレ (女川) に着き、大いなる湾を発見する。ここに2つの良港があって、1つを石浜といい「サン・アントン」と名付け、他のウラジという所を「サン・トマス」と命名した。

アメリカ合衆国のサン・ディエゴも、ビスカイノが名付けたようです。

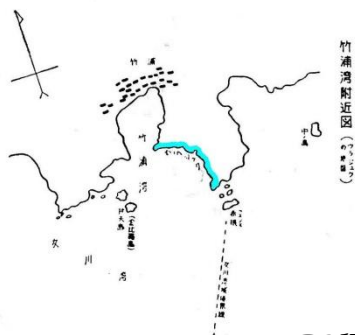
ウラジとは、竹浦湾の入口付近に浦宿^{うらじ}と呼んでいる漁場であることが判明。この地名は、部落民以外の者にはほとんど知られていない。この浦宿と呼ばれる漁場のある竹浦湾は、天然の良港で、風波が穏やかで海水が深く、2～300トンの船が楽々と出入りできる湾で、古くから漁民の住んでいた所である。

みんなが呼んでいる、あの「ウラズグ」のごとだっっちゃ。

金銀島探検記には、ウラガレ (女川) という大きな湾があること、またここに石浜とウラジ (竹浦) という2つの良港があることが指摘されている。

竹浦湾は、400年前の大帝国イスパニアの使節が認め、仙台藩伊達政宗公に良港であると報告された、三陸代表のいい港だったんだっっちゃ♥

竹浦は、守るべき歴史のある部落だヨ!



誌港漁浦竹

イスパニア人セバスチャンビスカイノの金銀島探検記によれば、慶長十六年ビスカイノおよびソテロ一行が伊達政宗公の依頼により仙台領の港湾調査をなしたる中に良港湾石浜及びウラジを発見したる記事あり。ウラジは浦宿にして竹浦湾の口の一部分なれば、すなわち竹浦湾のことなりす。

つづく...

その一部をご紹介します。

たげなに来たら、石碑ば見てけらいん♥ (みてください)

竹浦漁港の歴史が刻まれた石碑は、あの巨大津波をのりこえ、今も力強く竹浦に建っています。(現在は、漁業会館があった場所付近に移動してあります。)

竹浦漁港誌...ご存知でしょうか。

温故知新

竹浦漁港誌より

